

令和6年度 学校評価報告書

令和6年度の学校関係者評価の結果を下記のとおりまとめました。特に、本年度の学校評価に対する意見については、令和7年度の学校経営、学校運営等に生かしていただくよう要望いたします。

令和7年3月3日

南小学校運営協議会
会長 高木 かおる

学校自己評価及び学校関係者評価の結果

項目	評価内容・評価基準	学校の自己評価（学校職員）			学校関係者評価（学校運営協議会委員）	
		評価	評価点	分析・考察 □：評価点 ◎：成果 ●課題	評定	本年度の学校評価に対する意見等
教育基盤	1 本校の教育基盤である「学校の教育目標」「めざす児童像・学校像・教師像」の啓発 ○ 学校の教育目標やめざす児童像・学校像・教師像を学級経営の基盤にして、学習指導や生活指導等を行う。		3.4	□ 平均得点は3.4である。 ◎ それぞれの担当で重点目標や数値目標を具体的に設定し、児童の実態に応じて手立てを工夫し実践することができた。 ● 管理職と職員とのミーティングで重点目標に対するそれぞれの役割を細かく協議し、全職員で共通理解した上で共通実践できるようにしていく。	A	○ 南小学校の目指す児童像や学校像が日常の生活から伺えるため、適切な指導が行われていると感じる。 ○ 職員間で課題の共有をどう行ったのかを確実に行う必要がある。どのような工夫がなされ、どう変化したのかについて分かるとよい。
	① 学校の教育目標やめざす児童像・学校像・教師像を踏まえた学年・学級経営方針を立てている。	3.5				
	② 上記の学年・学級経営方針に基づいた学習指導、生活指導の努力事項を設定している。	3.5				
	③ 上記の努力事項に基づいた具体的な指導を実践している。	3.2				
	④ 上記の具体的な指導に基づき、評価を行い、改善に努めている。	3.2				
授業力の向上・確かな学力の育成（知）	2 基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実 ○ 基礎・基本的事項の定着や読書活動の推進、家庭学習の充実を通し学力の向上を目指す。		3.3	□ 平均得点は3.3である。 ◎ 基本的な学習態度・学習習慣については、本校で作成した学習の約束、家庭学習のおしりの活用、3～6年生は、家庭学習ノート（スマイル）を使用し、定着を図っている。 ● 家庭学習週間（読書週間）を設け、家庭への啓発を図り、定着しつつあるが、その内容等の工夫改善が必要である。	A	○ 図書室がよく整備され、本に親しみやすい環境がある。 ○ 図書館サポーターをさらに活用し、特に低学年に対してブックトーク等を活発に行い、好きな子どもを育ててほしい。 ○ 基本的な学習態度や学習習慣が身に付いていると思われる。 ○ 家庭学習について、内容的に学力に結びついているのか、形骸化していないかという視点をもってほしい。
	① 話す・聞く・読む・書くなどの基本的な学習態度の内容を明確にしている。	3.2				
	② 上記の内容を明確にした上で、学習指導時に一人一人に応じた指導を行っている。	3.4				
	③ 読書に親しむ機会や読書量の充実について手立てを講じている。	3.4				
	④ 家庭での学習習慣の定着に向けて指導の手立てを講じ、見届けを行っている。	3.2				
	3 基礎学力を向上させる指導の工夫 ○ 授業の改善・充実、課題やプリント学習の工夫、繰り返し（ドリル）学習、ICT機器の活用等を通して基礎学力の向上に努める。		3.4	□ 平均得点は3.4である。 ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「ひなたの学び」や「わさびの授業」を意識して授業改善に取り組んでいる。 どの学年も、ICT機器の効果的な活用に積極的に取り組み、児童が授業で活用する力も高まっている。 ● 全国学力調査やみやざき学力調査等の諸検査を細かく分析し、基礎学力の定着が図れるように対策を立てる必要がある。	A	○ ICT機器の効果的な活用がなされ、児童が使いこなしている。 ○ 参観授業を通して、ICTにおける児童のスキルも先生方の活用スキルも向上している様子がうかがえる。 ○ 問題の解き方のテクニックというよりも、概念の理解をしっかりとさせる指導の工夫が大切だと思われる。
	① 担当学年、担当教科等の基礎・基本の学力を明確にしている。	3.5				
	② 学習課題やプリント学習の工夫、繰り返し（ドリル）学習、ICT機器の活用等を実施している。	3.6				
	③ 上記の手立てに基づき、変容や指導の効果の把握に努めている。	3.2				
	④ 上記の指導の効果の把握に基づき、学習指導の改善に努めている。	3.2				
豊かな心の育成（徳）	4 積極的な生徒指導 ○ 学校生活の様々な場面において、適切な生徒指導を行う。		3.2	□ 平均得点は3.2である。 ◎ 各学級の児童の様子について全職員で情報共有を行い、ろうか歩行指導の日を決めるなど、全職員で具体的な対応することができた。 いじめや不登校、問題行動等については、職員で情報を共有し、それぞれの事案に対応することができた。 ● ふだんの授業について、生徒指導の3つの機能を生かした学習活動になるようにさらに意識を高めていく必要がある。	A	○ 気になる児童への配慮が細くなされている。 ○ 参観授業で授業にのぞむ子どもたちの様子や態度を見ると、先生方の指導によって、落ち着いているように感じる。
	① 生徒指導の3つの機能（自己存在感、自己決定、共感的理解）を生かした学習指導が展開できている。	3.2				
	② 「時を守り、場を清め、礼を正す」の率先垂範と見届け指導の充実が図られている。	3.1				
	③ 月別目標に基づき、各学年の実態に応じた具体的な指導が行われている。	3.2				
	④ いじめ、不登校、問題行動等に対し、早期発見、早期対応に努めている。	3.4				

豊かな心の育成 (徳)	5 福祉教育・体験活動の充実及び潤いのある教育環境づくり ○ ボランティア活動や体験活動、清掃時間等の指導の充実を図る。		3.3	□ 平均得点は3.3である。 ◎ ボランティア活動については、学年でいっしょに取り組んだり、児童個人で取り組んだりする姿が見られた。 リサイクル委員会の活動は、児童が自主的に環境美化に努めようとしていることが認められ、市の精励賞として表彰された。	A	○ リサイクル委員会や、ボランティア活動に取り組む子どもたちの自主的な活動の様子はとてもすばらしい。このすばらしい取組が、ぜひ広がってほしい。
	① ボランティア活動や清掃指導等に児童と一緒に取り組んでいる。	3.2				
	② 学校行事や体験活動の充実・改善に努めている。	3.4				
	③ 清掃の仕方や清掃用具の使い方、後始末の仕方について指導し、校内や教室内の整理整頓、不要物処理など環境整備に努めている。	3.4				
	④ 児童の安全面に配慮し、環境整備の充実・改善に努めている。	3.5				
	6 感性豊かな人権感覚の醸成及び道徳教育の充実 ○ 児童一人一人に気を配り、人権教育や心の教育を計画的に行う。		3.3	□ 平均得点は3.3である。 ◎ 人権教育については、人権週間を設けたり、全学年で人権に関する授業に取り組んだりして、人権尊重の取組を進めることができた。 ● 友だちや周りの人のことを思いやる大切さについて、道徳を中心に計画的に進めていく必要がある。	A	○ 子ども同士が接している姿に思いやりを感じることから、適切な指導が行われていると思われる。
	① 望ましい人間関係の醸成を図るため、日常的に児童の言動に気を付けている。	3.3				
	② 望ましい人間関係の醸成を図るため、授業で具体的な指導をしている。	3.3				
	③ 人権教育計画、道徳科の年間指導計画を作成し、計画的に指導している。	3.2				
	④ 道徳科や学級活動の指導において人権教育に関わる指導を確実に実践している。	3.3				
健やかな体の育成 (体)	7 食育の推進 ○ 給食時間のマナー指導や食に関する指導を積極的に行う。		3.2	□ 平均得点は3.2である。 ◎ 感染症対策を行いながら給食当番指導や給食指導を適切に行うことができた。 ● 食に関する指導については、給食センターや栄養教諭と連携し、具体的な学習の場を設定していく必要がある。	B	○ 体づくりの基本である食の指導については、栄養教諭等との連携を図って、学習の機会をもっと増やしてほしい。
	① 給食時間の流れに沿って、給食当番の準備や後片付けの指導をしている。	3.5				
	② 給食指導計画に沿って、食事の習慣やマナー等、実態に応じた指導をしている。	3.3				
	③ 学級活動や給食指導、弁当の日を通して、栄養面や食文化など食に関する指導をしている。	3.4				
	④ 食に関する指導の授業を実施している。	2.7				
	8 保健指導・安全教育の推進 ○ 健康観察や保健指導、避難訓練等を通して、児童の健康で安全な生活に必要な習慣や態度を養う。		3.5	□ 平均得点は3.5である。 ◎ 避難訓練を計画的に行うことができた。災害時を想定した引き渡し訓練は、児童だけでなく、職員や保護者の動きが再確認することができた。 養護教諭による歯磨き指導や性に関する指導の充実を図ることができた。 ● 立腰指導について、授業中の姿勢がくずれる児童もいるので、体幹を鍛えていく指導をしていく必要がある。	A	○ 避難訓練や引き渡し訓練が計画的にきちんとおこなわれているところがすばらしい。 ○ 南海トラフ地震の発生の可能性が高まっている現在、より現実的な訓練が必要になる。引き渡し訓練なども実施されており評価できる。
	① 児童の健康状態の把握に努めている。(朝の健康観察、授業中の観察など)	3.6				
	② 児童の健康・安全面について指導をしている。(服装、立腰、安全な行動など)	3.4				
	③ 保健指導や避難訓練等について、年間指導計画を作成し、実施している。	3.5				
	④ 児童の健康・安全面について、養護教諭、関係教諭とともに、家庭との連携を図っている。	3.5				
	9 体力づくりの実践・運動の日常化 ○ 体力向上プランを活用し、効果的な体育の授業や体育的行事の工夫・改善を行う。		3.4	□ 平均得点は3.4である。 ◎ 体力向上(持久走)やなわとびチャレンジの時間の取組により、体力や技能の向上を図ることができた。 職員対象の陸上運動の体育研修の時間を設定し、指導力の向上を図った。 ● 外遊びをする児童もいるが、タブレットの影響もあり、運動をする時間が減っているため、運動の機会を増やす必要がある。	A	○ 1年生の体育の様子を授業参観させてもらったが、長なわをする子どもたちが上手に跳べっており、日常的に取り組まれている様子がうかがえた。
	① 体育の授業で、基礎体力を付けるための運動を実施している。	3.5				
	② 体育の授業、体育的行事を日常指導と関連付け、基礎体力向上に計画的に取り組んでいる。	3.4				
	③ 体育学習カードやがんばりカードを活用し、個々の実態に応じた体力向上に取り組んでいる。	3.5				
	④ 昼休み時間に外遊びを勧め、日常的に体を動かす習慣が身に付くようにしている。	3.2				
地域に根ざした開かれた学校づくり	10 学校と保護者・地域社会との連携 ○ 学校や学年のPTA活動、奉仕活動等に積極的に参加することができている。		2.8	□ 平均得点は2.8である。 ◎ PTA活動の案内や参加の呼びかけについては、Sigfyを活用して行うことができた。 ● PTA活動が自主的な活動へと変わる過渡期である。PTA活動への積極的な協力を呼びかける必要がある。	B	○ 先生方が無理なく参加できるPTA活動があればよい。 ○ Sigfyを活用して、保護者とのやり取りがしかりできていと感じる。 ○ PTAの在り方が時代とともに変化しているので、その変化にうまく対応してほしい。 ○ PTAが主体となって行う行事も少なく、子どもたちが外で遊んだりする機会も減少し、さらに親同士の会話の場も少なくなっているため、PTA活動への参加も減っているように見受けられる。
	① 学校のPTA活動への参加を促し、自らも積極的に参加している。	2.8				
	② 学年や学級のPTA活動への参加を奨励し、自らも積極的に参加している。	2.9				
	③ 奉仕活動への参加を奨励し、自らも積極的に参加している。	2.8				
	④ 地域の活動への参加を奨励し、自らも積極的に協力している。	2.5				

地域に根ざした開かれた学校づくり	1 1 情報の積極的な発信と連携の推進 ○ 学校行事や児童の様子を積極的に保護者や地域に発信し、連携を図る。		3. 4	□ 平均得点は3. 4である。 ◎ 南小ホームページや学校通信、学級通信を通して、今後の行事予定や日々の学校や児童の様子について、定期的に情報発信することができた。 緊急の連絡事項や時間割、学級通信等を、sigfyを活用して家庭に発信することができた。	B	○ ホームページや学校通信の内容が充実し、学校の様子がよく分かる。適切な情報発信が行われている。 ○ 保護者は、Sigfyで情報が伝わるが、地域（一般の人）にも伝わるような発信手段があってほしい。
	① 学校通信や学級通信、HP等を定期的、計画的に発信している。	3. 5				
	② 学校通信や学級通信、HP等で、児童の生活や学習の様子や状況を発信している。	3. 3				
	③ 電話連絡や面談等により、家庭との連携を密に図っている。	3. 5				
	④ 参観授業や学級懇談を工夫し、情報を積極的に発信している。	3. 4				
教育課程の確実な実施・評価	1 2 教育課程の確実な実施による教育活動の向上 ○ 教育課程の確実な実施により、教育活動の向上を図る。		3. 4	□ 平均得点は3. 4である。 ◎ 本年度の反省事項を次年度の教育課程作成に生かすようにしている。反省事項を確認し、それをもとに、次年度の改善策を立てることができた。 ● 教育活動の向上につながる取組について、実施方法を工夫改善していく必要がある。	A	○ 様々な新しい取組が求められる中、先生方は、日々努力をしながら誠実に対応されている。 ○ 本年度の課題を明確にし、反省を生かして次年度の教育課程を実践してほしい。
	① 教育課程に基づいて、学習指導、生徒指導、学校行事等を適切に計画している。（Plan）	3. 5				
	② 教育課程に基づいて、学習指導、生徒指導、学校行事等を適切に実施している。（Do）	3. 5				
	③ 教育課程に基づいて、学習指導、生徒指導、学校行事等を適切に評価している。（Check）	3. 2				
	④ 教育課程に基づいて、学習指導、生徒指導、学校行事等を適切に改善している。（Action）	3. 3				
	1 3 教育活動の工夫・改善と教育内容の充実 ○ 教育活動の工夫・改善を進め、教育内容の充実を図る。		3. 4	□ 平均得点は3. 4である。 ◎ 職員研修で、ICTの活用について学び合い、日常の指導に生かすことができた。 ● 情報モラルやICT機器のきまりについて再確認し、よりよい活用の仕方について、再検討する必要がある。	A	○ 子どもたちがタブレットを使いこなしている。授業にも、効果的に活用されている。
	① 教材研究や教材作成を工夫し、授業や指導の充実を図っている。※ICT機器の活用を含む。	3. 5				
	② 実態把握や児童理解を工夫し、生徒指導や心の教育の充実を図っている。	3. 3				
	③ 校務部や担当の取組の工夫・改善を進め、教育活動の充実を図っている。	3. 3				
	④ 校務部や担当の取組の評価を確実にし、教育活動の工夫・改善を進めている。	3. 3				